

このメールマガジンはスポーツ振興くじ (toto) 助成金を受けて配信しています。

☑ スポーツ振興くじ (toto) についてはこちらから
[日本スポーツ振興センター HP] <http://www.jpnsport.go.jp/>



スポーツ振興くじ助成事業

特集

クラブ運営に地域住民が主体的に参画しているクラブ

クラブの理念を実現するためには、地域住民が自ら発言し、活動に参加していけるような組織であることが重要です。今回は、クラブ運営に地域住民が主体的に参画しているクラブを紹介します。

詳細 → [多寄スポーツクラブ](#)

詳細 → [おおくすクラブ \(東みよし町総合型地域スポーツクラブ\)](#)

特別企画

障がい者スポーツと総合型クラブ

地域コミュニティの核として期待されている総合型クラブは、地域の障がい者がスポーツに親しむことができる環境を今後さらに提供することが望まれています。今回は、障がい者と健常者がともに楽しむ教室を開催しているクラブを紹介します。

詳細 → [NPO法人 黄金井倶楽部](#)

連載

みんなで盛り上げよう! オリンピック・ムーブメント

オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。今回は、オリンピック・ムーブメント、パラリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

詳細 → [群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会](#)

詳細 → [認定NPO法人 朝日丘スポーツクラブ](#)

助成金情報

- (公財) ノエビアグリーン財団「公益財団法人ノエビアグリーン財団 助成事業」
- (公財) ヨネックススポーツ振興財団「ヨネックススポーツ振興財団 平成29年度助成金」

詳細 → http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/H28/MM130_aid.PDF

お知らせ

- イベント情報
 - ・ブロック別クラブネットワークアクション2016開催報告
 - ・第44回日独スポーツ少年団同時交流 団員・指導者募集
- 日本体育協会公認スポーツ指導者資格情報
- [スポーツ庁] 第2期スポーツ基本計画の策定について (中間報告)

詳細 → http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/H28/MM130_info.PDF

バックナンバー

毎月配信される総合型地域スポーツクラブ公式メールマガジンは、バックナンバーとしてPDFでいつでも閲覧可能です。 [こちらをクリック](#)してご覧ください。



特集

クラブ運営に地域住民が主体的に参画しているクラブ

多寄スポーツクラブ ＜北海道士別市多寄町＞

日本体育協会が掲げる総合型クラブの基本理念「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、クラブ運営側の努力に加えて、地域住民が自ら「こうしたらいんじゃないか」と発言し、活動に参加していけるような組織であることが重要です。

そこで今回は、クラブ運営に地域住民が主体的に参画しているクラブを紹介します。



ここがポイント!

- ① 「多世代交流」を目的にイベントの内容を変更し、参加人数が増加!
- ② 体育協会との表裏一体の組織運営で互いを補完することで、多くの住民が支援!
- ③ 横断的に人を集め、コミュニティ間の交流を促すことで地域課題を解決!

1 クラブ概要

多寄スポーツクラブ(以下、多寄SC)のある士別市多寄町は北海道北部に位置する農村です。夏は暑く、冬は寒い、一年の温度差が60度にもなる地域で、主産業はズバリ! 農業です。住民も、農家・元農家・農協職員・土地改良区職員など農業関係者がほとんどを占めています。

士別市は最後の屯田兵村の一つです。多寄町では1900年に入植がはじまり、1909年に多寄村が発足しました。1954年、一町三村が合併し士別市が誕生。その二年後の1956年に多寄町体育協会が設立されました。その後1975年に多寄町民体育大会(後に町民フェスティバルに改称)が始まりました。多寄町はその誕生当初からスポーツが盛んな地域でした。

こうした背景のもと、1997年に総合型SCの育成モデル地区の指定を受け、多寄SC協議会が設立されました。当時の多寄町体育協会会長である山崎前会長の掛け声のもと、町民一同一致団結。石川事務局長や佐々木現会長らが中心となって事業を立ち上げました。当時は少ない事例の中、手探りで活動していました。その後、試行錯誤もありながら、士別市体育協会・多寄町体育協会の支援もあり、2000年に多寄SCを発足。時を同じくして、自分たちの手で40㎡のクラブハウスを建設しました。

多寄SCは当初より「多世代交流」を目的に活動しています。例として町民フェスティバル(町民体育大会)を挙げます。通算で42回の歴史を重ねている大会です。そして、今までに大きな変更が二度行われました。

一つ目は、12年前の30回大会の時に名称を変更したことです。もともとは体育大会という名の通り、競技性の強い種目が多く、一日かけて本気で競い合うような内容でしたが、高齢者

人口が増える中、参加者が減ってきていました。そこで大会の目的を「交流」へシフトしました。名称も町民体育大会から町民フェスティバルに変更し、午前中で終わるようにしました。

二つ目が多寄保育園との合同開催です。多寄町には保育園があり、現在10名前後の園児が登園しています。6年ほど前から園児たちのお遊戯や徒競走などもフェスティバルの中で行うことにしました。それにより、今まであまり来ていなかった20~40代の親世代が来るようになり、孫の活躍する姿を見に祖父母の代も来るようになり、また普段子供と接する機会のない方々も子供たちを見られるようになりました。

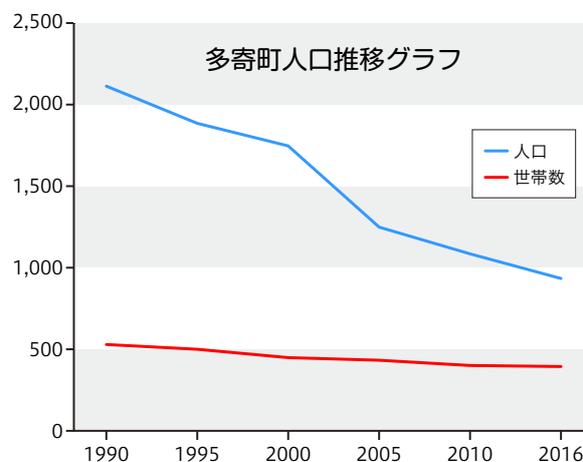


2

地域住民がクラブ運営に 参画するようになった経緯・内容

多寄SCができた当時、多寄町の人口は1,433人、世帯数は472戸でした(平成13年現在)。現在人口が936人、世帯数400戸です。また、会員数は現在一般・少年団合わせて239人(平成28年度現在)。人口の約4分の1が会員ということになります。世帯数がさほど減っていないことが、独居世帯の増加を示しています。日本全体で人口減少が続いている中、町内の人口が減っていくことは避けられないこと。では、いかに減少を和らげそのショックを減らすかがポイントであると考えています。

人口減少によって何が問題となるかという点、「1.社会的な孤立：精神的身体的な健康状態の喪失、2.社会関係資本の減少：機械や労働の貸し借り、産業の発展に不可欠、3.社会的伝統の喪失：神輿・盆踊り・雪祭りなど」が考えられます。それぞれ農村社会の存続に不可欠なものです。それをいかに維持しながら軟着陸させるかが、地域スポーツクラブが果たせる地域貢献の一つだと思います。



3

地域住民に参画していただくための工夫等

多寄町はもともとスポーツが盛んな地域です。それは例えば、多寄町体育協会は士別市ができた頃と同時期に設立されており、すでに60年以上の歴史があるところからも読み取れます。現在、体育協会へ自治会費を通してほぼ全戸から会費をいただいております、『オール多寄』で支援している状況にあります。全ての住民がなんらかの形で多寄SCや体育協会とかかわっていて、もはや自治会と同レベルで見られています。

多寄町体育協会はスポーツの普及、多寄SCは多世代交流をそれぞれ目的としており、互いに補完関係にあります。役員も半数以上重複しており、まさに表裏一体の組織運営がされています。この役員ですが、スポーツクラブで41人、体育協会37人と、その規模からずいぶん人数がいるように思えるかもしれませんがその内29人が重複しています。そのうえ、農家と非農家のバランスを考えて構成されており、相互のコミュニケーションの促進が図られています。

また、自治会会長や小中学校の校長等もメンバーとなっています。スポーツは職業や経営に左右されないきわめてニュートラルな存在なので、垣根を越えて情報交換ができるツールとして最適です。

また、事務局長が自宅横の古い住宅を、バーベキューも楽しめるスペースに改装しました。町民が徒歩で移動できる場所に第二のクラブハウスができたようなものです。そこで会議や食事会もできます。最近、事務局長手づくりのピザ釜も完成し、多寄町住民のサロンとして交流を促進しています。



4 他の地域住民への効果・影響等

例えば、クラブに参加していることで健康増進や競技力の向上につながることもあると思います。しかし、一番重要なのは多世代交流を通じて、先ほどあげた三つの課題の解決に貢献しているということです。現役世代を見てみると、同じ地域に住んでいても、実はなかなか交流する機会が少なかったりします。各々のコミュニティ、例えば農協や農事組合、作目別部会などでの交流はあるものの、世代の違いなどもあり接点がないとなかなかコミュニケーションが難しいこともあります。また、外に出る機会をつくることで、独居世帯が増え、高齢者の孤立が心配される現状下、住民同士の会話が健康管理にも繋がります。

多寄SCは多寄地域において、横断的に人を集め、コミュニティ間の交流を促し、そのつながりを深める役割を果たしています。

5 運営スタッフ募集の際のリスクマネジメント

多寄SCは、現在有給の専属スタッフを雇用しておらず、すべて住民によるボランティアによって支えられています。したがって、どのような方がスタッフとして参加されても対応できるよう、マニュアルが作成されています。例えば町民フェスティバルでは細かな配置図が描かれており、対応が容易になっています。

6 今後の課題・展望

人口が急速に減少していく中、クラブとして地域にどういった貢献ができるのか。非常にチャレンジングな問いであると思います。多寄SCの強みは地域に特化していることだと考えていますが、同時に人口が減少していく中で、現状の取り組みを維持していくことは難しいと思います。

また現在、士別市からの助成を受けていますが、どこの自治体も財政状況が厳しい中、いつまでも助成が続くとは限りません。したがって、自主財源を得て経営を安定化し、いかにサービスの質を下げずに行うことかが、ますます求められるようになります。

具体的には法人化と指定管理で安定的に収益を安定化させること、そして町外の会員を増やしていくことの二点を目指しています。組織運営については、町のボランティアスタッフを中心にしつつも、有給スタッフを導入していき、さらに、会員が全て農業関係者であることを活かし、スポーツと農業の接点を探してビジネスに発展させられたら面白いと思います。

(多寄スポーツクラブ クラブマネジャー 谷 寿彰)

クラブプロフィール

設立年月日 : 平成12年4月1日

所在地 : 北海道士別市多寄町

運営 : 会員数 : 239名 (平成28年4月現在)
予算規模 : 90万円 (平成28年度)

有給職員 : 0名

クラブ内資格 : 日体協公認クラブマネジャー 1名

保有者数 : 日体協公認アシスタントマネジャー 2名

特徴 : 多寄スポーツクラブは稲作の北限にほど近い北海道士別市多寄町に位置しています。日本体育協会の総合型地域スポーツクラブ育成モデル地区事業指定を受けて、平成9年10月22日にクラブ育成協議会が設立され、平成12年4月に多寄スポーツクラブを設立しました。「多世代交流」を目的として活動しており、町民手作りのクラブ運営を進めています。

【事業内容】

- 町民フェスティバル
- 町民パークゴルフ交流大会
- 札幌ドーム視察研修
- 町民健康教室
- 筋肉番付インたよろ
- 町民ミニバレー大会
- 町民卓球大会
- 町民スキー教室&大会
- 生涯スポーツ全国会議派遣

特集

クラブ運営に地域住民が主体的に参画しているクラブ

おおくすクラブ
 (東みよし町総合型地域スポーツクラブ)
 <徳島県三好郡東みよし町>

日本体育協会が掲げる総合型クラブの基本理念「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、クラブ運営側の努力に加えて、地域住民が自ら「こうしたらいいんじゃないか」と発言し、活動に参加していけるような組織であることが重要です。

そこで今回は、クラブ運営に地域住民が主体的に参画しているクラブを紹介します。

👉 ここがポイント!

- ① 誰でも参加できる地域の大イベント「スポーツフェスティバル」を開催!
- ② 会員・行政・学校などすべての関係者に働きかけ、協力を得る!
- ③ イベント後の振り返り、スタッフ専用ホームページなどで情報を共有し意識統一!



1 クラブ概要

文部科学省の施策を受け、町教育委員会生涯学習課が設立準備委員会及び運営委員会を発足させ、設立に向け各種事業を展開する中、クラブの運営を地域住民の手で行っていかうと、当時、町内で活動していた女性バレーボールチームのメンバーが設立準備委員会に参画することとなりました。以降、設立までの間「総合型地域スポーツクラブとは？」というところから勉強を始め、行政と連携し、何度も協議を重ねていきました。

設立の半年前には、地域の保護者から要望を受け、その女性バレーボールチームのメンバーが指導者となり、キッズスポーツ教室（やまももクラブ）が誕生しました。「子ども達の運動嫌いをなくそう!」「行政・学校・家庭・地域が協働し、地域の大切な子ども達を健全に育てよう!」そんな熱い思いで活動をスタートさせました。

設立にあたり、成人対象教室については、既に地域で個々に指導されていた講師の皆様「総合型地域スポーツクラブ」の理念、地域の住民による住民のための活動であることを理解していただき、4教室を立ち上げました。子ども対象教室は、キッズスポーツ教室（やまももクラブ）と少年野球教室の2教室から始めました。スポーツ少年団として、長く活動を続けていた少年野球教室の指導者・保護者の方にも「総合型地域スポーツクラブ」の趣旨に賛同していただきました。

町内にある国の天然記念物「加茂の大クス」は、樹齢千余年、大地に根を張り大空に幹を伸ばしています。我がクラブも、誰もが参加でき自主的に運営・楽しく元気な交流の場を作ること、心身共に健康になれることを目的とし、地域に根を張った活動を続けたいと、「おおくすクラブ」と名付けました。

各教室から運営委員を選出し、定期的に運営委員会を開催し、活動に対する要望や提案をいただきながら、クラブの理念や方向性を確認してきました。事務局もほぼ全ての教室を訪問し、指導者や会員との交流を図り、常に情報発信・収集に努めています。

新規教室開設についても、常に会員のニーズを把握し、「昼夜の時間帯を選べる教室」「初心者対象教室」「文化教室」「季節限定教室」「サークル型教室」「ニュースポーツ教室」等、様々な形態の教室を開設してきました。

設立後は、総合型地域スポーツクラブ自立支援事業を5年間受け、活動の基盤を作り、現在は自主財源と町補助金のみで運営しています。



2 地域住民がクラブ運営に参画するようになった経緯・内容

町の人口は約15,000人。クラブは7年目を迎えた現在、15教室・約340名の会員が活動しています。

運営スタッフは、キッズスポーツ教室（やまももクラブ）指導者を中心に約30名。多種多様な職種・年代の方が携わっています。また、会員や運営委員は「自分たちの教室は自分たちで盛り上げよう!」という気持ちが強く、積極的に様々な行事に参加し、事務局をサポートしてくれます。

クラブでは、年に1度「スポーツフェスティバル」を開催しています。クラブの一大イベントで

あり、教室間の交流や異世代間の交流、また、地域への広報活動を目的とし、参加者は約200名。たくさん風船で飾られた会場で、紅白に分かれてのミニ運動会や、お楽しみ抽選会、教室の活動発表など、誰もが笑顔で過ごす、おおくすクラブの一体感を感じることのできる有意義な一日です。

この運営には、会員・保護者・運営委員とともに前日準備から後片付けまで、多くの町職員・町内幼小中学校教職員なども運営スタッフとして関わっています。地域のみなさんと繋がり、交流を深めることは、それぞれの仕事にも役立っています。

「スポーツフェスティバル」は、会員だけでなく会員の家族・知り合いなど、どなたでも参加できます。フェスティバルに参加して新規入会したり、他の教室の活動に参加したりと交流が広がっています。また、運営スタッフの苦勞も理解していただき、「少しでもお手伝いを」という気持ちの方が増えています。終了後の運営委員の感想に、「スタッフのみなさんの大変さが、身にしてみても分かりました」「道具・賞品の準備・アトラクションの手順等、用意周到。スタッフの方に敬服・感謝いたします」「スタッフの皆様のおかげで、楽しい一日を送ることができ、ありがとうございました」「本当にお疲れ様でした。スタッフの皆様のご頑張りに負けないよう、練習を頑張ります」など、スタッフのモチベーションを上げる言葉をたくさんいただきました。感謝の心がつながり、好循環を生んでいるのだと思います。



3 地域住民に参画していただくための工夫等

おおくすクラブには、設立当初から専任で経営・運営に携わっている者はおらず、それぞれの仕事を持ちながらクラブ運営を行っています。会員のみなさんがこの現状を把握し、熱心に活動し、時には運営のサポートもしてくれるようになりました。

また、行政の理解・協力もあり、町職員にクラブのボランティアスタッフとしての参加を勧められています。

クラブとしても、毎年、町内の保育所・幼稚園・小中学校関係者・保護者を対象に、子育てをテーマにした講習会などを開催し、活動への理解と連携・協力を求めています。このような取り組みの中で興味を持ち、趣旨に賛同し、スタッフとして参加してくれることもあります。

その他、保育所や幼稚園・小学校から運動指導の依頼を受けることも多く、それを機にクラブへの関心も深まっています。

広報活動についても、クラブホームページの運営やおおくすクラブ通信の発行（年3回：全会員へ配布及び町内幼・小中学校へ配布・町役場・公民館等に掲示）・町広報誌への記事掲載など、地域への情報発信を積極的に行っています。

4 運営スタッフ間の意識統一のための工夫等

クラブは、常に運営スタッフを募集しています。性別・年齢に関係なく、幅広く人材情報を入手すべく動いています。

まずは、クラブの理念を十分に理解してもらうこと。「参加することで自分自身のためになる!」と考えられること。参加していく中で、運営方法や人とのコミュニケーションを学び、やりがいを得るまでには時間がかかります。スタッフの勉強会なども定期的に行い、意識を高めます。

スポーツフェスティバルなどの大きなイベントの際には、2か月ほど前から準備をはじめ、何度も打ち合わせを重ね、当日を迎えます。会員の皆さんの感謝の笑顔がスタッフの報酬、達成感となります。しかし、なかなか続けられるものではありません。仕事を持ちながらもボランティアとして関わり協力してくれている現在の運営スタッフは、クラブの大きな財産です。

少しでも良いイベントにするために、スタッフはイベント後に「振り返り」をしています。良かったことや次回開催時に改善したら良いことなど、どんな小さな気づきも、スタッフ全員で共有し、次回開催時に共通理解を図ります。前例踏襲ではなく、常にベストな運営を目指しています。

また、スタッフ同士の情報交換の場としてホームページ上にスタッフページを設けています。このページには、活動への出欠入力・イベントの情報等を掲載しています。情報を共有することで、スタッフ間の意識統一が図れています。

5 今後の課題・展望

現在、クラブは、行政や学校・地域住民の協力を得て、順調に活動を続けています。理念を理解し、運営に携わってくれるスタッフも増え、会員も積極的に活動に参加しています。地道な活動を続ける中で、大きな信頼と絆でクラブがまとまっていることを感じています。

クラブに専任で関わる運営スタッフがないことは課題のひとつですが、それゆえに各教室の運営委員や会員の結束が固いことも事実であり、今後は個々の教室の自立運営を目指し、確立していくことで課題は解決できます。

「住民による住民のための活動!」

おおくすクラブは、原点を忘れず、これからも活動を続けていきたいと考えています。

(おおくすクラブ クラブマネジャー 國安 恵)
事務局 宮内 美和)

クラブプロフィール

設立年月日：平成22年3月7日

所在地：徳島県三好郡東みよし町

運営：会員数：338名(平成28年12月現在)
予算規模：390万円(平成28年度)

有給職員：0名

特徴：「おおくすクラブ」は、楽しく元気な交流の場をつくることを目的とし、心身共に健康になれるよう活動しています。運営スタッフは、全員、他の仕事を持ちながら熱心にクラブ運営に携わっています。指導者や会員、またスタッフ間の絆も月日を重ねるごとに深まり、「共にクラブを支え、盛り上げよう」と、日々の活動に取り組んでいます。登録料についても設立当初から変わらず、月額1,000円を納めるとどの教室にも追加費用なしで参加できるシステムで、クラブ内の様々な教室に参加する方が増え、会員同士の交流も図られています。行政の理解と協力もあり、学校や地域との交流も活発に行われるようになりました。

■連絡先

郵便番号	771-2501
住所	徳島県三好郡東みよし町昼間3697-1番地 東みよし町教育委員会生涯学習課内
TEL	0883-79-3217
FAX	0883-79-5060
Eメール	miyauchi-m4@mkknet.jp
ホームページ	http://ookusu.co/

 特別企画

障がい者スポーツと総合型クラブ

NPO法人 黄金井倶楽部

<東京都小金井市>

地域コミュニティの核として期待されている総合型クラブは、地域の障がい者がスポーツに親しむことができる環境を今後さらに提供することが望まれています。

今回は、障がい者と健常者がともに楽しむ教室を開催しているNPO法人黄金井倶楽部「リフレッシュくらぶ」の取組をご紹介します。

1 クラブ概要

平成16年度より、文部科学省の推進事業・総合型地域スポーツクラブ育成支援指定クラブとして小金井市内で活動を開始した3つのスポーツクラブ（アミューズ・クラブ、むさしの野川クラブ、小金井ベルタ）がひとつになって、総合型地域スポーツクラブとして設立されました。

今年度、設立10年目を迎えた黄金井倶楽部は、3つのクラブの特性をいかしつつ、老若男女を問わず、いつでも・どこでも・だれでも・いつまでもスポーツに親しむことができるように、地域密着型のスポーツクラブを目指し活動しています。

【実施種目】

卓球、リフレッシュくらぶ、パドルテニス、フラダンス、小学生陸上教室、ヨガ、エアロビクス、ピラティス、太極拳、ママエクササイズ、親子スキンシップ体操、スポーツ吹き矢、女子サッカー、中学生野球、ハイキング、上級救命講習、輪投げ大会、ティーボール大会のほか、市委託事業を実施

2 教室内容・実施までの経緯

今回、取材に伺ったリフレッシュくらぶは、「集う・遊ぶ・笑う」をテーマにみんなで工夫しあって、いろいろな種目に挑戦しています。気軽に、マイペースに、素敵な仲間と「笑う！月曜日」として、大変好評です。

『どのようなきっかけで障がい者も参加できる教室を始めたのですか？』

教室指導者の北原佳代先生は、「勝ち負けや上達ばかり気にしてしまうと、そこからこぼれてしまう方が出てしまう。スポーツの楽しみ方は人それぞれで、気軽に参加できる場も必要」と話します。数値として表れる効果だけでなく、気軽に足を運ぶことができ、その日集まった仲間

と楽しく遊び、笑うだけでも心の健康、さらには身体の健康にまで目に見えない効果があるのではないかと考え、「リフレッシュくらぶ」を提案したそうです。北原先生の斬新な提案や健康づくりへの情熱に背中を押され、黄金井倶楽部の教室としての開催に至りました。



『障がい者も一緒に参加できる教室では、どんな工夫がありますか』

■ 障がいの有無は、誤差範囲。「障がいに寄せる」ことはしない。

この教室は、障がい者の方も気軽に参加することができます。しかし、障がい者にルールを合わせたり、ハンディ（特別対応）を与えたりせず、できる範囲でほかの参加者と同じく様々な種目にチャレンジできるようにしています。このような誰もが参加できる受け皿として教室を開催できているのは、北原先生の指導の工夫が大きいです。

健常者と障がい者では、スポーツの行いやすさが多少異なるかもしれませんが、健常者であっても高齢になると身体の不調や持病などにより、多少身体の動きに不自由な点が個人差としてあらわれます。例えば手がうまく使えないときは、足の運動をすることはできません。その「少しの差」を「誤差範囲」として、みんなが楽しめるよう工夫することで補っています。

教室ではバレーボールや卓球・ミニテニスを取り入れていますが、車いすの方が参加するには「普通の卓球ではなかなかラリーが続かないから、ボールを転がしたらどう？」との発案を受け、サウンドピンポン(※1)を取り入れ、ルールもアレンジしたところ、以前よりも盛り上がりを見せたということです。

※1 サウンドピンポン(サウンドテーブルテニス)

音のでるボールを台上で転がして打ち合う、視覚障がい者のための卓球のこと。

また、バレーボールでは車いすの方に限らず、腰痛のある方やずっと立っているのが辛い方もいたことから、参加者の発案でネットに一番近い前線のポジションは全員椅子に座ることをルールとし、さらに前線の方はプレイ中に立ってはいけない(立った場合は減点!)こともルールに追加したところ、リフレッシュくらぶで一番盛り上がる種目となりました。みんな夢中でプレイしていると、椅子に座っている前線のひともあとちょっとでボールに手が届くと思って、つい立ち上がってしまいます。この珍プレーが笑いの渦になっているそうです。無意識に両手を伸ばして、立ち上がってしまうことから「タケノコバレー」と名付けられました。

このようにリフレッシュくらぶでは、不自由を障がいのある方だけのハンディとするのではなく、みんなで体験し、逆にその不自由すら楽しみに変えてしまっています。北原先生は、「みんな考えて、みんなに合わせて楽しめるルールが大事。そうじゃないと、健常者の方は、障がい者の方に合わせてあげていると感じてしまい、楽しみが減ってしまう。この教室は、無理なく、できる範囲で楽しんでもらいたい。お休みするのも少し遅れて参加するのも全部自由です」と話しています。リフレッシュくらぶの和やかな雰囲気は、参加への気軽さからきているのかもしれない。

■ 道具のない時代の経験を活かす。

昔は、今のようにスポーツ用具もなく、道具を自ら作ったり、遊びを考えて遊んでいました。リフレッシュくらぶに参加している皆さんは、そのような幼い頃の経験をこの教室でも活かしています。

教室の会場である会議室はカーペットの床であり、体育館からバレーボールの支柱やネットなど用具を運び込むことができません。そこで出てきたアイデアが『ゴーヤのネットを使った

らどうだろう?』というものでした。さっそく、緑色のゴーヤネットの先端に白いテープを貼り、設置したところ、見事に機能を果たしたのです。また、卓球は会議室の長机を組み合わせて卓球台にするなど、身近にあるもので代用しています。「用具が充実していることに越したことはないが、なくてもできる」というのが北原先生の考えです。

『参加者を増やすために工夫していることはありますか』

■ 真剣勝負で童心に戻る。

ルールを少しアレンジしたり、用具や会場にひと工夫加えたりすることで、障がい者も健常者と同じようにスポーツ活動(クラブ)に参加することが可能となります。しかし、毎週取り組む種目では必ず最後に勝敗をつけ、運動を通じて、勝負にチャレンジする楽しさを創り出しています。せっかく一生懸命プレイしても、結果がうやむやでは子ども騙しのようで、楽しさにも飽きがきてしまいます。一生懸命やるのであればきちんと得点をカウントし、対戦結果を発表する。この勝敗がつく楽しさが、このリフレッシュクラブの盛り上がりにもつながっています。



■ 色々な参加のかたちがある。

黄金井倶楽部の各教室の無料体験は1回と設定されていますが、このリフレッシュクラブのみ複数回の無料体験を可能としています。それは、この教室は、色々な種目にチャレンジすることを特徴としており、たまたまバレーボールの日に体験した方が、「これは私には疲れて無理だわ」と参加をあきらめてしまうこともあったため、参加者からの体験談も参考に、複数回の無料体験ができるように変更しました。天野クラブマネジャーは、「いろいろな参加のかたちを受け入れてもいいと思った。それが総合型クラブの良いところなんだと思う」と話します。

天野クラブマネジャーや北原先生に共通するのは、みんなで考えて、みんなのアイデアを取り入れてみることです。役員や事務局スタッフだけが運営の主体となるのではなく、指導者や参加する会員のちょっとした気づきや「こうしたらどうだろう!」という閃きをうまく取り入れることが、黄金井倶楽部の10年を支えてきたのだと思います。

■ 私の教室に孫と参加することが楽しみ!

リフレッシュクラブの参加者のなかには、「来週、孫が冬休みで遊びに来るから、一緒に教室に参加するんです。前にも参加したことがあって、おばあちゃんの教室にまた行きたい!って楽しみにしてるんです」と楽しそうに話してくれる方もいらっしゃいます。他にもお孫さんと一緒に参加した方々もおり、いつもの参加者に小さな子どもが加わるだけで楽しさが倍増する様子でした。

また、参加者からは「気分転換になる。自転車で30分かけて通っているが楽しくて続けられる」「お話ししながらも、足踏みしたり、肩をまわしたり運動を行うので、この教室は無駄がないし、飽きないんです」「テレビでやっていたことなど、最新の運動も先生が取り入れてやってくれるから、身体の動かし方などたくさん教わることができる」との声もあり、この教室が単なるプログラムの創り手と受け手の関係ではなく、みんなで楽しみを創造しているようでした。



黄金井倶楽部は、10年の歩みのなかで会員に「マイクラブ」として確立され、温かいメンバーシップのなかでゆっくりと育っています。

3 今後の課題・展望

『最後に、これからの課題と展望をお聞かせください』

黄金井倶楽部はこれまでの10年間色々な経験をさせていただき、総合型地域スポーツクラブとしての位置を築いてくることができました。参加者や教室スタッフをはじめ地域の方々の意見に耳を傾け、できることを積極的に取り入れてきました。「リフレッシュくらぶ」もその一つです。

障がいを持つ方の参加については、ご本人の状況と意向をよく確認することと、他の参加者の皆さんの負担にならず、なおかつ助け合う雰囲気づくりが大切だと考えます。

現在、この活動が障がいを持つ方に十分に周知されているとはいえません。アプローチの方法を考えながら、地域の誰もが一緒に健康増進を目指す活動をすすめていければと思っています。



【お話を伺った方】

- 理事・クラブマネジャー
天野 和代 氏 (右から1番目)
- リフレッシュくらぶ指導者 / 多摩総合精神保健福祉センター・中部総合精神保健福祉センター スポーツ講師
北原 佳代 氏 (右から2番目)

クラブプロフィール

設立年月日 : 平成18年4月1日

所在地 : 東京都小金井市

運営 : 会員数: 380人 (平成28年8月現在)
予算規模: 19,650千円 (平成28年度)

有給職員 : 5名

特徴 : 黄金井倶楽部は小金井市にある唯一の総合型地域スポーツクラブです。「だれでも」「いつでも」「世代をこえて」気軽にスポーツや文化活動を楽しみながら、心身ともに健康になり地域の人たちとふれあいの輪がひろがることを目指しています。

■ 連絡先

郵便番号	184-0015
住所	東京都小金井市桜町2-2-31 上水公園運動施設管理棟内
TEL	042-406-2280 ※平日(月~金) 9:00~17:00
FAX	042-406-2290
ホームページ	http://koganei-club.com/

連載



みんなで盛り上げよう!

オリンピック・ムーブメント

パラリンピック・ムーブメント事例紹介

〔群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会〕

オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神（オリンピズム）に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて、国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、各クラブや総合型クラブ連絡協議会が実施しているオリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

わくわく交流フェスタ2016

- 実施日時 平成28年12月11日(日) 9:30～15:00
- 実施会場 ALSOKぐんま総合スポーツセンター内
ぐんま武道館 大道場・第三道場
- 参加者数 251名(県内15クラブ) ※講師、役員含む
- 主催/主管 群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
- 共 催 (公財)群馬県スポーツ協会

<パラリンピック・ムーブメント>

パラリンピックスポーツを通して発信される価値やその意義を通して世の中の人に気づきを与え、より良い社会を作るための社会変革を起こそうとするあらゆる活動

※「第2期スポーツ基本計画の策定について(中間報告)」参照

1 企画経緯

年度当初の企画委員会において、2020年を見据えて、障がい者がクラブへの参加を考えたとき、まずは健常者と一緒に参加できる種目を知っておくことが大切であるとの意見がありました。そこで、県立盲学校に勤務されている直井由香先生（アテネパラリンピックのゴールボール銅メダリスト）をはじめとする3名の方に、今回のゴールボール体験会の講師をしていただきました。

また、県障がい者スポーツ協会の協力により、県ボッチャ協会を紹介していただき、ボッチャの体験会も実施できるようになりましたので、同時に2種目の体験が可能となりました。

2 企画内容

午前は、ラジオ体操・ZUMBA・ダンス&音楽系の発表があり、午後から「パラリンピックを体験しよう」ということでゴールボールとボッチャの体験会を行い、参加者を2班に分け、それぞれの種目を45分交替で行いました。

ゴールボール（講師3名）

【ルール】

目隠しをして鈴の入ったボールを交互に転がしあい、自陣ゴールを守りながら、敵陣ゴールに入れることで得点する競技です。前後半の12分ハーフで、より得点を入れたほうが勝利となります。コートに入る選手は1チーム3人です。



【当日の流れ】

まずはゴールボール競技の歴史やルールを紹介いただき、実際の競技映像を視聴し、ゴールボールの理解を深めました。その後、講師にデモンストレーションをしていただき、参加者もゴールボールを体験しました。

目を開けた状態でお互いにスロー（投げる）&セービング（止める）を行い、その後、目隠しの状態で同じようにスロー&セービングを行いました。ボールには、鈴が入っているため、会場を静かな状態にしなから行いました。



ゴールボールの講師「直井先生」によるスローイングの実技。的確なコントロールに参加者一同から驚きの声上がる。ボールを受けた人はスピードとボールの重さに驚きを隠せなかった。



音を頼りにボールのコースを確認する難しさを体験することで、パラリンピックでのゲームがいかに高度なことをしているのかを知る。時間の関係上ゲームまでは行えなかった。

ボッチャ(ボッチャ協会関係者13名)

【ルール】

まず先行側がジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールを投げ、その後赤(先行側)、青(後攻側)の6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりすることで、いかに持ち玉をジャックボールに近づけるかを競う競技です。すべて投げ終わった時点で、相手側よりもジャックボールに近い球数が得点になります。

障がいの重い方でも、足を使ったり、ランプ(滑り台のような補助器具)を使ったりすることで投球が可能になります。



【当日の流れ】

まずはボッチャのルールとゲームの仕方を紹介いただき、その後、各コートでボールを投げる練習を行いました。練習後は、子どもチーム対シニアチームといった具合に、対戦形式でゲームを行いました。

また、周藤穂香さん(ボッチャ現役プレイヤー)がゲストデモンストレーターとして、ランプを使った高い技術を披露されました。



ボッチャは、ルール説明のあと3つのグループに分かれて、3人ずつのチーム戦を行った。ジャックボールにいかに近づけるか？ 相手ボールを近づけさせないようにするか？ 頭脳戦の始まり…。



一球投げる毎に盛り上がり、ため息をついたり、子どもも高齢者も一緒になって楽しいひとときを体験した。今度は障がいのある方も一緒にゲームをできたら、今後の展開に広がり膨らませた。

3 参加者・運営側の声

参加者の声(実施後)

- 一日、楽しく過ごすことができたが、パラ種目はもっと時間があっても良いと思いました。
- 直井先生も周藤さんもそれぞれの種目において卓越した技術を持っておられ、参加者からは「すごい」「素晴らしい」の声が多数聞こえました。
- パラ種目は、障がいのある方と一緒にプレーできることはもちろん、子どもも高齢者も同じルールで実施できるので、クラブ内で行う種目としては最適であるように思いました。
- 簡単に実施できる種目ですが、奥が深く知れば知るほどおもしろいものだと思います。

運営側の声(実施後)

参加者250名程度と予想し、武道館を使用しましたが、今後さらに参加者が増えることを考えると会場設定が難しいと思いました。次回、同様の企画を行う場合は、時間設定に余裕を持ち、

最後にゲームが楽しめる内容に改善したいと思います（ゴールボールは試合を行うことができなかった）。

今回のフェスタに学校関係者が4～5名来ており、障がい者の方との交流にゴールボールを利用したいと言って見学されていました。盲学校の先生方は、自分の学校のチーム指導もありますが、依頼があれば普及にも協力してくれるとのことであり、今後につながりました。

4 今後の展望

バリアフリーの考え方において、一緒にスポーツを楽しみ、スポーツを通して明るい社会づくりができることを目指したいです。これを機会に各クラブにおいては門戸を広げ、障がいがあっても気軽に参加できる雰囲気作りに役立ててもらいたいです。

今後も障がい者が健常者と一緒にできる種目をさがし、各クラブに紹介をしていきます。

(群馬県クラブアドバイザー 小林 秀光)

● 群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会プロフィール ●

設立年月日：平成22年3月27日

所在地：群馬県前橋市関根町

■ 連絡先

郵便番号	371-0047
住所	群馬県前橋市関根町800 ALSOKぐんま総合スポーツセンター内
TEL	027-234-5555



みんなで盛り上げよう!

オリンピック・ムーブメント

オリンピック・ムーブメント事例紹介

[認定NPO法人 朝日丘スポーツクラブ]

オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神（オリンピズム）に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて、国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、各クラブや総合型クラブ連絡協議会が実施しているオリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

外国人案内ボランティアの育成

- **実施日時** [おせっかい活動] イベント時
[おせっかい活動に生かすための取組]
豊田良いところ勉強会 (毎月第3土曜日10:00-12:00)、
英会話教室 (毎週木曜日)
- **実施会場** とよた市民活動センター及び朝日丘スポーツクラブハウス
- **参加者数** 63名
- **主 催** Toyotaまるごとおせっかい事務局
(認定NPO法人朝日丘スポーツクラブ)
<http://toyota-osekkai.com/>
- **協 力** おせっかいJapan (東京)

1 企画経緯

平成27年5月から、おせっかいなボランティアをすることを目的に、英会話教室を開催してきましたが、1年半を経過したところで当初の参加者40名から15名と減ってしまいました。

参加者を再募集する際に、ボランティアグループの名前や事務局体制をしっかりと作ろうということになり、事務局に若者を3名配置しました。同時にグループ名を「Toyotaまるごとおせっかい」とし、現在の英会話教室や勉強会を開催しています。

2 実施方法

クラブへの入会とは別に「Toyotaまるごとおせっかい」に登録（無料）した方がのみが、下記の勉強会・教室・イベントに参加できます。

勉強会：月に一度の豊田良いところ勉強会（平成29年度は複数回実施を予定）

教室：任意で参加できる英会話教室（3000円／月）

イベント：「おせっかい活動」

英会話教室



講師：アレックス先生
毎週木曜日19:00から20:30
朝日丘スポーツクラブ内での活動

豊田良いところ勉強会



毎月第3土曜日10:00から12:00
とよた市民活動センターでの活動

3 活動概要

2019年ラグビー W杯、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定をきっかけに、豊田に来て困っている外国人に対して、積極的に声を掛けて問題解決を「お手伝いしちゃう」という、市民のホスピタリティあふれる、ちょっと「おせっかいなボランティア」をする環境を整えようとする活動です。2020年以降も、この活動を継続することによって市民のおもてなしや親切な意識を地域に普及・定着させたいと思います。

この活動は、イベント時に主催者が募集する大会運営ボランティアではありません。あくまでも自主的な活動であって、外国人に「おせっかい」をして楽しんでもらったり、自らも楽しもうとする活動です。

企画内容「おせっかい活動」

【目的】

せっかく豊田に観光旅行やビジネス、ラグビー W杯、オリ・パラの観戦に来てくれるのであれば、「ついでに」豊田のいいところを積極的に案内しようという、ちょっとの「おせっかい&おもてなし」をします。外国人の方々が「良かった」「楽しかった」「また来たい」と思ってくれば最高です。

【活動】

豊田に来て困っている外国人の方に対して、積極的に声を掛けて問題解決をお手伝いしたり、地図やスマートフォンを見ながら固まっている外国人に声を掛けます。また、豊田市民でもわかりづらいバスの路線案内や、ホテルの場所、美味しい日本食(天ぷら、スシ)のお店の案内等を、ボランティアが3~4人(英語が得意な人、豊田の街に詳しい人、コミュニケーションが得意な人等)でチームを組んで積極的にサポートします。

たとえ困っている外国人がいなくても、街の中で外国人を見つけて積極的に話しかけ、楽しくコミュニケーションを取っています。

ラグビー日本代表 VS スコットランド戦 (豊田スタジアム)



◀ 豊田市駅前通りでの活動

▶ 名鉄豊田市駅前での活動



10月15日 挙母祭り(挙母神社)



◀ ニュージーランド人夫婦・子どもにおせっかい活動

▶ 豊田へ出張中のベルギー人の方におせっかい活動



4 参加者・運営側の声

参加者の声(実施後)

- こちらから外国人に積極的に声を掛けていくという経験がなかったのですが、この会に参加し、少しずつですが、イベントが楽しくなってきました。
- もっと豊田の良いところを勉強し、豊田に来られた外国人の方におせっかいなぐらい案内したいです。

運営側の声(実施後)

市外からの参加者もいて、この活動を通じて、クラブのことを知ってもらい、色々なつながりができています。スポーツイベント時では、主催者からの依頼があり活動を行っていますが、市の広報誌(広報とよた)、ケーブルTVや新聞に何回か取り上げられ、クラブの認知度は向上しています。また行政や関係機関(まちづくり推進団体等)にもこの活動を理解してもらえているので、地域の情報や資料の提供を受けています。

外国人に気軽に声が掛けられるように、色々なイベントに参加し、ボランティアの経験を積み、2019年ラグビー W杯や2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け「おせっかいなボランティア」ができるようにしたいです。

5 今後の展望

【学び+交流+絆】

多言語を習得したいボランティアの「実践の場」でもあり「成長・学び」の場にもなります。ボランティア自身が豊田の良さを再発見し、さらに豊田が好きになり、楽しみながらこの活動することに意義があります。そして、人と人との交流が広がり多くの絆が結ばれ、より良い関係が築かれることを願っています。

2019ラグビー W杯、2020東京オリンピック・パラリンピック後も、この活動を継続していこうと思います。

(認定NPO法人朝日丘スポーツクラブ 事務局長 三田 博司)

クラブプロフィール

設立年月日：平成16年10月11日

所在地：愛知県豊田市朝日丘地区

特徴：子供たちがスポーツを楽しみながら体力、精神力などを磨き、10年、20年スポーツを続けることにより、やがて地域を支える大人になり、指導者として又はクラブのスタッフとして戻ってくる。そのような循環がスポーツクラブの正しい姿だと信じています。先進国のスポーツクラブでは、子供から大人までスポーツのみならず文化教室などいろいろな形でクラブライフを楽しみ、心身ともに健全な活動が展開されています。朝日丘スポーツクラブが100年続いた時、人々から「このクラブがあってよかった」「このクラブは私たちのクラブだ」と誇りを持って言えるクラブを目指しています。

■連絡先

郵便番号	471-0852
住所	愛知県豊田市御幸町1丁目34番地
TEL	0565-32-7812
FAX	0565-32-7813
Eメール	aspc7812@hm9.aitai.ne.jp
ホームページ	クラブホームページ http://www.hm9.aitai.ne.jp/~aspc7812/index.html Toyotaまるごとおせっかい事務局 Facebook https://www.facebook.com/toyota.osekkai/



助成金情報

公益財団法人ノエビアグリーン財団 助成事業

[実施団体] (公財)ノエビアグリーン財団

児童、青少年の健全育成の向上を目的とした体験活動、およびスポーツの振興に関する事業を積極的に行い、または奨励している団体が対象となります。

[申込期間] 平成29年2月28日(火) ※当日消印有効

助成金交付申請書をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、関係資料を添付して郵送します。

<http://www.noevirgreen.or.jp/grants/index.htm>

ヨネックススポーツ振興財団 平成29年度助成金(後期)

[実施団体] (公財)ヨネックススポーツ振興財団

青少年スポーツの振興に関する事業を積極的に行い、奨励し、または自ら行い、かつ3年以上継続して活動している団体が対象となります。

[申込期間] 平成29年6月30日(金) ※当日消印有効

交付申請書をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、対象団体であることを証明する書類を添付して送付します。

<http://www.yonexsports-f.or.jp/joseikin.html>


 お知らせ

イベント情報

◎ブロック別クラブネットワークアクション2016開催報告

【公益財団法人日本体育協会 総合型地域スポーツクラブ全国協議会 主催】

総合型地域スポーツクラブ関係者が抱える課題解決の糸口を探るための情報の共有化や、クラブ育成支援のためのネットワークの強化を図ることなどを目的として、全国9ブロックでクラブネットワークアクションを開催しました。

☑ 各ブロック開催報告はこちら

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid/508/Default.aspx>

◎第44回日独スポーツ少年団同時交流 団員・指導者募集

本事業は、日独両国のスポーツ少年団の優れた青少年および指導者の相互交流により友好と親善を深め、国際的な能力を高めると共に両国の青少年スポーツの発展に寄与することを目的に昭和49(1974)年から継続して実施しており、これまで両国あわせて1万人以上もの青少年の交流を行ってきています。

☑ 募集要項についてはこちら

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/syonendan/doc/44th_haken_bosyu.pdf

お申し込みされる場合は、所属の市区町村スポーツ少年団、都道府県スポーツ少年団からの推薦が必要になります。

応募の詳細につきましては所属の市区町村スポーツ少年団へお問い合わせください。

☑ 今年度の交流様子はこちら

<http://www.japan-sports.or.jp/photoalbum/tabid/1078/Default.aspx>

日本体育協会公認スポーツ指導者資格情報

◎平成29年4月1日付公認スポーツ指導者資格登録手続きのお知らせ

平成29年4月1日付公認スポーツ指導者資格登録手続きを実施します。資格の取得および資格継続のために必要な手続きになりますので、該当する方は平成29年3月31日(金)までにお手続きいただきますようお願いいたします。

更新手続きのご案内は、更新に必要な義務研修を修了された方へ、1月下旬からご登録住所宛に更新手続きのご案内をお送りします。

【スポーツ庁】第2期スポーツ基本計画の策定について(中間報告)

平成28年12月22日に行われたスポーツ庁のスポーツ審議会において、「第2期スポーツ基本計画の策定について(中間報告)」がまとめられ、去る平成28年12月27日から平成29年1月25日まで意見募集が実施されています。

☑ 詳細はこちら

http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/001_index/gaiyou/1380733.htm